

<総括>

出題数 現代文1題・古文2題・漢文1題

試験時間 120分

マックス・ウェーバーの考えをもとに、政治的な中立性が持つ危うさを論じた評論からの出題。  
 全体の記述量が大きく減り、昨年出題のなかった客観問題が出題された。  
 本文の具体例を参考に、自分で適切な具体例を挙げて説明する問題が出題された。文章の読解力だけではなく、思考力・判断力・表現力などが問われる問題であった。

<本文分析>

大問番号	一
出典 (作者)	『中立とは何か マックス・ウェーバー「価値自由」から考える現代日本』朝日新聞出版(野口雅弘)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約4500字→約3640字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化)・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	記述	標準	傍線部の具体例を本文中から抜き出す。 空欄を補充する引用文を選択肢から答える。 前後の文脈を踏まえて説明する。 傍線部の内容を本文全体の論旨を踏まえて説明する。 解答に必要なポイントを過不足なく読み取るのが難しい。 本文の論旨を踏まえながら、傍線部を含む段落の内容を中心にまとめる。 具体例を一つ挙げ、傍線部の内容を説明する。具体例を自分で考える問題は文学部としては初めての出題であった。
		問2	客観	標準	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	やや難	
		問5	論述	やや難	
		問6	論述	やや難	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

評論だけでなく、柔らかめの随筆などにも触れておくとよい。  
 書き取りは出ないが、読解の基礎なので対策を講じておこう。  
 長大な論述に慣れておく。

<総括>

出題数

現代文1題・古文2題・漢文1題

試験時間

120分

二は、江戸時代の和文文章史である「訳文童諭」からの出題で、本文は読み取りやすく、設問も答えやすいものが多かった。  
 三は、中世の擬古物語「別本八重葎」からの出題で、本文は読み取りやすいが、設問には答えにくいものもあった。  
 今年は、どちらにも文学史問題が出題されなかった。

<本文分析>

大問番号	二	三
出典 (作者)	訳文童諭 (伴蒿蹊)	別本八重葎
頻出度合 ・的中等	稀	稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約580字→約730字	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約830字→約1060字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	和文文章史	問1	記述	標準	現代語訳 文法問題 内容説明問題 理由説明問題
		問2	記述	易	
		問3	記述	標準	
		問4	記述	標準	
		ア	記述	標準	
		イ	記述	標準	
三	擬古物語	問1	記述	標準	現代語訳 内容説明問題 理由説明問題 理由説明問題 内容説明問題
		問2	記述	標準	
		問3	記述	標準	
		問4	記述	やや難	
		問5	記述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文法や単語といった基本の力をしっかりと身に付け、それを踏まえた解釈が出来るように学習を重ね、その上で、設問にきちんと対応できるような記述力を身に付けること。また、さまざまなジャンルの問題にあたるようにしておこう。

<総括>

出題数 現代文1題・古文2題・漢文1題

試験時間 120分

江戸後期の文人による天明の大火を題材にした漢文小説。富山県高岡の人。  
文学史・思想史の出題なし。  
記述すべき分量が多かった。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	『蛸洲餘珠』寺崎蛸洲
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 213字→237字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	漢文	問1	記述	標準	「家人周章、納某櫝、舁送野外、帰再運貨物、無守櫝者。」の現代語訳。 「大駭逸去。」を主語を明らかにしてわかりやすく説明する。 「既死来地獄。」となぜ思ったのか。六十字以内で説明する。 「傍有老叟亦避火者。」の書き下し文。 「因語以夜来大焼事。」の書き下し文。 「始知」は何を始めて知ったのか。内容を述べる。 「已」「復」「乃」「益」の読み方。
		問2	記述	標準	
		問3	記述	やや難	
		問4	記述	標準	
		問5	記述	やや難	
		問6	記述	やや難	
		問7	記述	易	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまなジャンルの漢文にふれておこう。
- ・重要語句や構文をマスターし、書き下し文に改める問題に対応できるようにしておこう。
- ・説明問題に十分対応できるように、正確な読解力と答案作成力を養っておこう。
- ・文学史・思想史に関する基礎知識を養っておこう。